

## 令和 2 年一級建築士試験

### 「学科の試験」の合格基準点等について

1. 正 答 肢：下表のとおり。

問題 No. 科目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
学科Ⅰ	2	3	3	4	2	4	1・4 (注)	4	1	1	4	3	4	3	2	2	2	1	3	4	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
学科Ⅱ	4	1	4	2	1	3	1	2	4	3	4	2	3	4	3	2	2	3	1	4	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
学科Ⅲ	3	3	4	4	2	2	2	1	3	2	4	1	4	2	1	3	4	1	2	3	2	4	3	1	2	4	3	3	1	4	
学科Ⅳ	1	4	2	2	2	4	3	4	4	2	1	1	3	3	2	4	3	2	3	1	3	3	1	2	1	2	4	3	3	1	
学科Ⅴ	1	4	3	4	3	4	1	3	3	2	1	3	3	2	4	2	2	2	3	2	4	1	4	1	1	/	/	/	/	/	

(注)学科Ⅰ No. 7については、肢 1 を正答肢と想定していたが、別紙のとおり、肢 1 及び肢 4 を正答肢とする措置を講じている。

2. 配 点：それぞれの科目の正答数をその科目の得点とし、各科目の得点の合計を総得点とする。  
(各問題 1 点、学科Ⅰ及び学科Ⅱ 20 点満点、学科Ⅲ及び学科Ⅳ 30 点満点、学科Ⅴ 25 点満点、  
合計 125 点満点)

3. 合格基準点：各科目及び総得点の合格基準点は下表のとおり。

	学科Ⅰ (計画)	学科Ⅱ (環境・設備)	学科Ⅲ (法規)	学科Ⅳ (構造)	学科Ⅴ (施工)	総得点
合格基準点	11	10	16	16	13	88

\* 各科目及び総得点の合格基準点すべてに達している者を合格とする。

\* なお、合格基準点について、各科目は過半の得点、総得点は概ね 90 点程度を基本的な水準として想定していたが、本年の試験問題は例年に比べて学科Ⅱの難易度が高く、また、総じて難易度が高かったことから、上記合格基準点としている。

4. その他

試験問題は、当センターのホームページに掲載します。

下記の学科 I の No.7 の正答肢

肢1について、基準階の平面計画において、熱負荷の影響を軽減するために南北面にコアを配置することは不適當であることから、正答肢としている。

肢4について、「非常用エレベーター」と「荷物用エレベーター(専ら荷物を輸送することを目的とするもので、荷扱者又は運転者以外の人は利用できないもの)」と兼用することは不適當であることから、正答肢としている。

記

〔No. 7〕 30階建ての事務所ビルの計画に関する次の記述のうち、最も不適當なものはどれか。

1. 基準階の平面計画において、南北面にコアを配置して窓を減らすことで、熱負荷の影響を軽減した。
2. 防災計画上の避難経路は、日常動線に配慮し、第1次安全区画である廊下から第2次安全区画である特別避難階段の付室を通じて、特別避難階段に避難できるように計画した。
3. エレベーターの運行方式は、建築物を10層ごとに三つのゾーンに分割して各ゾーンにエレベーター群を割り当てるコンベンショナルゾーニング方式とした。
4. 非常用エレベーターは荷物用エレベーターと兼用することとし、その乗降ロビーは特別避難階段の付室と兼用する計画とした。